



TITLE:

センター業績 (1997 年 4 月 1 日 -  
1998 年 8 月 31 日)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

センター業績 (1997 年 4 月 1 日 - 1998 年 8 月 31 日). 京都大学高等教育  
研究 1998, 4: 164-170

ISSUE DATE:

1998-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/53539>

RIGHT:

## 平成9年度センター業績

(1997年4月1日～1998年8月31日)

梶 田 勲 一 (教授)

### 【著作等】

- ・著書『〈生きる力〉の人間教育を』金子書房 (1997年12月)
- ・著書『フィールドノート 子どもの心を育てる授業』国土社 (1998年7月)
- ・責任編集『自信とプライドを育てる／教育フォーラム20』金子書房 (1997年5月)
- ・責任編集『授業における自己評価活動／教育フォーラム21』金子書房 (1997年12月)
- ・責任編集『総合的な学習の実践／教育フォーラム22』金子書房 (1998年6月)

### 【学会報告等】

- ・日本学生相談学会第15回大会 (追手門学院大学) 公開講演。(1997年5月10日)
- ・日本歯科医学教育学会第16回総会・学術大会 (東京歯科大学) 特別講演。(1997年7月17日)
- ・日本教育心理学会第39回総会 (広島大学) 自主シンポジウム (西山啓ス企画) 指定討論者。(1997年9月24日)
- ・高等教育国際ワークショップ (北海道大学) 講演 (シンポジスト)。(1997年9月26日)
- ・第52回国立病院療養所総合医学会シンポジウム (高松) 講演 (シンポジスト)。(1997年11月14日)
- ・第12回日本助産学会学術集会シンポジウム (東京) 講演 (シンポジスト)。(1998年3月17日)
- ・日本教師学学会設立記念シンポジウム・基調講演。(1998年5月9日)
- ・日本高等教育学会第1回大会「課題研究Ⅱ」報告者。(1998年5月30日)
- ・日本カリキュラム学会第9回大会「課題研究Ⅲ」報告者。(1998年7月5日)

### 【主要な講演・講義等】

- ・NHK教育TV「教育トゥディ'98 / 学校の悲鳴が聞こえる2. 心の教育ってなに」(22:15～23) 出演。  
(1998年4月18日)
- ・NHK教育TV「教育トゥディ'98 / 兵庫のトライやるウィーク」(22:15～23) 出演。(1998年7月18日)
- ・立命館大学大学教育シンポジウム／基調講演 (関係教員聴講)。(1997年6月27日)
- ・京都大学第2回討論集会イブニングセッション／話題提供 (総長・学部長・有志教官対象)。(1997年8月19日)
- ・京都大学工学部物理系研究会／講演 (関係教官対象)。(1997年12月22日)
- ・玉川大学工学部教育研修会／講演 (関係教員対象)。(1988年3月4日)
- ・関西工学教育協会機械分科会／講演 (関係教員対象)。(1988年4月24日)
- ・信州大学全学教官研修会／講演 (学長・関係教官対象)。(1988年5月14日～15日)
- ・高知大学新任教官研修会／講演 (関係教官・有志教官対象)。(1988年6月24日)
- ・IDE 近畿支部学生生活研究セミナー／話題提供 (関係教員対象)。(1988年8月27日)

### 【主要な社会的活動等】

- ・最高裁判所／家庭裁判所調査官試験委員会臨時委員
- ・兵庫県教育委員会／生き方を学ぶ性教育検討委員会・委員長 (1997年4月～1998年3月)
- ・兵庫県教育委員会／「心の教育」緊急会議メンバー (1997年8月～10月)
- ・大阪市教育センター／研究顧問
- ・大阪府箕面市／教育委員長 (1997年7月まで)
- ・大阪府箕面市／総合計画審議会会長 (1998年5月より)
- ・日本教職員組合／21世紀カリキュラム委員会委員長 (1997年5月から)
- ・兵庫教育大学参与
- ・放送大学客員教授
- ・帝塚山学院大学国際理解研究所客員教授

- ・関西大学大学院文学研究科非常勤講師（1998年3月まで）

## 田 中 毎 実（教授）

### 【著作】

- ・京都大学高等教育教授システム開発センター編『開かれた大学授業をめざして——京都大学公開実験授業の一年間』玉川大学出版部（1997年9月）

### 【論文その他】

- ・田中毎実・今井康雄「研究討議〔教師の存在論〕に関する総括的報告」（教育哲学会『教育哲学研究』第75号）（1997年5月）
- ・田中毎実「大学における公開実験授業——京都大学における一年間——」（『学士会会報』No. 816）（1997年7月）
- ・田中毎実「〈恫喝としての同一性〉という恫喝をくずらす——鷲野論文への応答」（教育思想史学会『近代教育フォーラム』第6号、1997年9月）
- ・田中毎実「定時公開実験授業〈ライフサイクルと教育〉(2)——〈一般教育〉と〈相互研修〉に焦点づけて」（『京都大学高等教育研究』第3号）（1997年9月）
- ・田中毎実「書評／中田基昭著『現象学から授業の世界へ』」（日本教育学会『教育学研究』第64巻第4号）（1997年12月）
- ・田中毎実「死の受容：E. キュブラー＝ロス」（矢野智司他編『人間学命題集』新曜社）（1998年3月）

### 【報告書その他】

- ・田中毎実「臨床教育学」／「フリースクール」（高橋勝他編『教育キーワード137』時事通信社）（1997年5月）
- ・田中毎実「現職教員の大学院教育——ライフサイクルの観点から」（京都大学教育学部・現職教育研究会『大学における教員研修の現状と課題Ⅰ』）（1997年9月）
- ・田中毎実「京都大学工学部学生の学習意欲と教育的課題——卒業生調査、4回生調査および今回の調査を手がかりに——」（京都大学工学部学習意欲調査委員会／代表者吉田郷弘『一般教育における工学部学生の学習意欲の向上方策に関する調査研究 報告書』1998年3月）
- ・田中毎実・杉本均・溝上慎一『平成8年度公開実験授業の記録』（京都大学高等教育教授システム開発センター編／京都大学高等教育叢書3 1998年3月）

### 【学会報告等】

- ・「これからの教養教育をどうするか」／第4回大学教育改革フォーラム／コメンテーター（京都大学高等教育教授システム開発センター）（1997年11月）
- ・「大学授業における構造の構造化」／「連続発表；京都大学における公開実験授業の成果と課題(4)」（大学教育学会第20回大会、国際基督教大学）（1998年6月）
- ・「教育学教育における学問共同体の構築と教育学の生成——公開実験授業の試みから——」／シンポジウム2「教育学教育」提案者（日本教育学会第57回大会、香川大学）（1998年8月）

### 【大学教授法等に関する講演等】

- ・メディア教育開発センター（1997-99年）／山口大学（1997年）／高松工業高等専門学校（1998年）

### 【社会における活動等】

- ・メディア教育開発センター研修事業委員会委員（1998年2月～2000年3月）  
教育思想史学会理事

## 石 村 雅 雄（助教授）

### 【著作】

- ・石村雅雄・岡本敬子「参観者はどう変わったか」（京都大学高等教育教授システム開発センター編『開かれた大学授業をめざして——京都大学公開実験授業の一年間』玉川大学出版部）（1997年9月）

【論文その他】

- ・石村雅雄「京都大学高等教育教授システム開発センターの活動」(『私学経営』第266号)(1997年4月)
- ・石村雅雄「スペース・コラボレーション・システムに依る講義に関する受講学生による授業評価報告」(『京都大学高等教育研究』第3号)(1997年10月)
- ・石村雅雄「書評：小野田正利『教育参加と民主制——フランスにおける教育審議機関に関する研究——』」(『日本教育行政学会年報』第23号)(1997年10月)
- ・石村雅雄「高等教育制度改革の手がかりを求めて」(日本教育制度学会『教育制度学研究』第4号)(1997年11月)
- ・石村雅雄「学部教育改革の現在——京都大学の場合——」(広島大学大学教育研究センター『教養的教育からみた学部教育改革——広島大学の学部教育に関する基礎的研究(4)』(高等教育研究叢書48)(1998年3月)
- ・石村雅雄「グランゼコールの功罪」(『日仏教育学会年報』第4号)(1998年3月)
- ・近田政博・石村雅雄「ベトナム」(馬越徹編『アジア地域の中等教育の内容と評価法に関する調査研究』名古屋大学大学院教育学研究科)(1998年3月)
- ・雲尾 周・金子 勉・石村雅雄「国立『学芸』学部・大学名称変更前後における学部改革の展開」(『新潟大学教育学部紀要』第39巻第2号)(1998年3月)
- ・石村雅雄「研究情報：フランス」(『日本教育経営学会紀要』第40号)(1998年6月)

【学会報告等】

- ・木岡一明・岩田康之・尾上雅信・大谷 奨・金子 勉・北神正行・雲尾 周・榊原禎宏・竺沙知章・西山 薫・浜田博文・船寄俊雄・堀井啓幸・山田朋子・石村雅雄「戦後『教育学部』史研究(3)——国立「学芸」学部・大学名称変更前後における学部改革の展開——」(日本教育学会第56回大会、日本大学)(1997年8月)
- ・石村雅雄「教養的教育改革の行方——京都大学の場合——」(広島大学大学教育研究センター月例研究会、広島大学)(1997年10月)
- ・石村雅雄(企画及び報告担当)「課題別セッション：高等教育セクターに対する資金調達の未来——国立大学の民営化論を出発点として——」(日本教育制度学会第5回大会、東北大学)(1997年11月)
- ・溝上慎一・石村雅雄・梶田叡一「京都大学の卒業生は大学教育をどうみているか——戦後50年、4学部の卒業生の意見調査から——」(高等教育学会第1回大会、広島大学)(1998年5月)
- ・石村雅雄「公開実験授業の成果と課題(その2)——大学授業研究における『参観者』の変化」(大学教育学会第20回大会、国際基督教大学)(1998年6月)
- ・木岡一明・岩田康之・尾上雅信・大谷 奨・金子 勉・北神正行・雲尾 周・小山恵美・榊原禎宏・竺沙知章・西山 薫・浜田博文・船寄俊雄・堀井啓幸・山田朋子・石村雅雄「戦後『教育学部』史研究(4)——私立大学における中等教員養成の展開——」(日本教育学会第57回大会、香川大学)(1998年8月)

【社会的活動等】

- ・広島大学大学教育研究センター客員研究員
- ・同志社大学文学部嘱託講師
- ・光華女子大学文学部非常勤講師

溝 上 慎 一 (助手)

【著作】

- ・溝上慎一「ビデオをどう使うか」(京都大学高等教育教授システム開発センター編『開かれた大学授業をめざして～京都大学公開実験授業の一年間』玉川大学出版部)(1997年9月)

【論文等その他】

- ・溝上慎一「自己評価の規定要因とSELF-ESTEEMとの関係～個性記述的観点を考慮する方法としての外在的視点・内在的視点の関係」(日本教育心理学会『教育心理学研究』第45巻第1号)(1997年4月)
- ・堀川 諭・溝上慎一「小規模大学における精神保健援助システム導入の試み(2)～生活実態調査の検討」(全国大学保健管理協会『第35回全国大学保健管理研究集会報告書』)(1997年11月)

- ・溝上慎一・水間玲子『『自我－自己』からみた青年心理学研究～意義と問題点、今後の課題』（『京都大学高等教育研究』第3号）（1997年10月）
- ・田中每実・杉本 均・溝上慎一『平成8年度公開実験授業の記録』（京都大学高等教育叢書3）（1998年3月）

#### 【学会報告等】

- ・溝上慎一『自己評価と人との関係性Ⅰ～肯定的自己評価と否定的自己評価の意味的付与の分別』（日本心理学会第61回大会、関西学院大学）（1997年9月）
- ・溝上慎一『自己評価と人との関係性Ⅱ～肯定的自己評価と否定的自己評価の意味的付与の分別』（日本教育心理学会第39回大会、広島大学）（1997年10月）
- ・溝上慎一・梶田敦一・石村雅雄『京都大学の卒業生は大学教育をどうみているか』（日本高等教育学会第1回大会、広島大学）（1998年5月）
- ・溝上慎一『集団討議における「補助手段」としてのビデオ撮影』（大学教育学会第20回大会、国際基督教大学）（1998年6月）
- ・溝上慎一・水間玲子『社会一個人基準を考慮した自己評価タイプにおける規定要因の特徴Ⅰ～法則定立的方法に個性記述的観点を導入したアプローチ』（日本教育心理学会第40回大会、北海道教育大学函館分校）（1998年7月）
- ・水間玲子・溝上慎一『社会一個人基準を考慮した自己評価タイプにおける規定要因の特徴Ⅱ～法則定立的方法に個性記述的観点を導入したアプローチ』（日本教育心理学会第40回大会、北海道教育大学函館分校）（1998年7月）

#### 【社会的活動等】

- ・光華女子大学非常勤講師

### 大 山 泰 宏（助手）

#### 【論文】

- ・大山泰宏「潜在性分裂病を疑われた思春期男子との面接過程」（京都大学教育学部心理教育相談室紀要『臨床心理事例研究』第24号、87-100頁）（1997年4月）
- ・大山泰宏「高等教育論からみた学生相談」（『京都大学高等教育研究』第3号、46-63頁）（1997年10月）

#### 【学会報告等】

- ・Yasuhiro OYAMA “The Paradigm of Education — An example of Japan”, IV Congreso Internacional de Education, Puebla, Mexico. (April 22, 1998)
- ・大山泰宏「京都大学における公開実験授業の成果と課題（その1）——何でも帳などの学生の反応を中心に——」（大学教育学会第20回大会、国際基督教大学）（1998年6月）

#### 【講演、その他】

- ・京都第二赤十字病院「エキスパート研修」講師（1998年2月）
- ・敦賀児童相談所「のびのび合宿」スーパーヴァイザー（1998年3月）
- ・大津赤十字病院「臨床指導者研修会」講師（1998年7月）
- ・奈良市教育委員会「カウンセリング講座」講師（1998年7月、8月）

#### 【社会的活動など】

- ・京都大学教育学部心理教育相談室カウンセラー
- ・京都大学教育学部学内非常勤講師（1998年4月～）
- ・京都第二赤十字看護専門学校非常勤講師
- ・大阪工業大学非常勤講師（1997年4月～9月）
- ・成安造形大学集中講義（1997年9月）

## RESEARCH CENTER FOR HIGHER EDUCATION

Yoshida-Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto 606-8501

Tel. (075) 753-3087

Fax. (075) 753-3045

<http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/highedu/>

Director: Eiichi Kajita, D. Litt.

### 1. INTRODUCTION

The Research Center for Higher Education was established in 1994 as an Inter-Faculty Research Center for studies of higher education which is facing various problems in this era of university popularization and globalization. This center is managed by five staffs who are engaged in researches, and is also administered by the governing committee consisting of eighteen professors from this and other faculties. It is the first national research institute for academic staff development, as well as for the improvement of curricula and educational evaluation in universities. Its main aim is to make further development of studies on teaching methods and systems for higher education. It also concerns with various fields of higher education studies including university management and student personnel services.

The following are the main fields:

1. Investigation and research of creative thinking and its development through higher education
2. Reform of university curricula, including exemplification of educational contents in various fields and levels
3. Development of evaluation systems for university education
4. Practical counselings, seminars and training courses for academic staff development
5. International and interdisciplinary researches on staff development
6. Research on adolescent mentality and student services

In every field, the center focuses on integration of theory and practice.

### 2. ACTIVITIES

#### 1. RESEARCH AND STUDY

##### a) Open Laboratory Class

Since 1996, the center has been holding "Open Laboratory Class" which is open for professors of this and other universities. The class is given by staff of the center. The behavior of students and lecturer are observed ethnographically and video recorded, and afterwards, attending professors discuss with lecturer. Through these procedures, they are supposed to have an occasion of research and mutual training of teaching. The first fruit of this experiment is published in 1997.

##### b) Research on graduates

Questionnaire research was implemented in 1996 on Kyoto University graduates of recent three decades, in order to know the changing needs and effects of university education. The findings which were published in

1997 are often referred when university curricula and system reforms are designed.

c) Cooperation in Research on 4th Years Students

In 1996, the center cooperated with the "Reviewing Committee for Subjects Common to All Faculties" in carrying out the questionnaire research on 4th years students to figure out their lives up-to-date and their activity of learning.

d) Questionnaire on Professors

Questionnaires were sent out on professors of Kyoto University in 1998 to know their interests in academic staff development and their ideas of university reform.

## 2. LECTURE AND SEMINAR

a) Monthly Open Seminar

Seminars or meetings are held monthly as a general rule, in which the latest results of higher education studies are displayed by the staffs of the center or guest speakers. As this seminar is open for everyone, it plays an important role of spreading higher education studies over not only universities but also the community.

b) Forum of University Reform

This forum is held once a year mainly targeted on higher education researchers and administrators including presidents and deans. Guest speakers as well as the staffs of the center give key notes speech, and various topics and problems about university reforms are discussed.

## 3. EDUCATION (1998-1999)

### 1. UNDERGRADUATE EDUCATION

Research Center for Higher Education offers two classes for "Subjects Common to All Faculties" of Kyoto University. One is the "Open Laboratory Class" in which the lecture titled "Life Cycle and Education" is given by Prof. Tanaka. The other class, "DAIGAKU or Higher Education", is managed by Associate Prof. Ishimura. In this class, staffs of the center give lectures in omnibus manner, so that students (mainly freshman) have an occasion to consider their purposes in university, their student life, their learning, and so on.

### 2. GRADUATE COURSE

The Department of Higher Education Research and Development was established in 1998 as a joint department in Graduate School of Education.

The courses are designed to cover various fields of higher education studies such as teaching and learning systems, evaluation systems, students' mentality, system and policy of higher education, and student affairs. A major focus of these courses concerns the integration of theory and practice.

This course offers students the training to master basic methods and theories of higher education studies including reading articles, video taping analysis, questionnaire methods, and ethnographical approaches, so that they can plan and accomplish their own researches following their interests.

Students wishing to enter this department have to pass the master course entrance examination which is held by Graduate School of Education in February. The master degree is awarded upon acquisition of required credits and favorable acceptance of the thesis.

## 4. INTERNATIONAL EXCHANGE

### GUEST SCHOLARS OR VISITING RESEARCH SCHOLARS

The center is willing to receive guest scholars or professors from foreign countries. It is desirable that they get some financial aids or foundations beforehand. Until 1998, the center has received two guest scholars, one is from Harvard University (United States) and the other is from Universidad de las Americas, Puebla (Mexico). Those who want to be guest scholar can contact us by e-mail or letter.

### OVERSEAS STUDENTS

The center is also open for students from abroad who want to study at our center. They are requested to master Japanese (or at least English) in advance. In order to become a graduate course student, one must pass the entrance examination which is held by Graduate School of Education. Research students status is also an option available to foreign students.

## 5. PUBLICATION

The center published the following books and journals.

1. "Kyoto University Researches in Higher Education" is annually published as the journal of this center. One can contribute his paper on higher education studies written in Japanese or English.
2. Series of books named "Kyoto University's Library for Higher Education Research" are to publish the result of researches at this center. Three books have been already published. Their titles are "The Questionnaire Research on Kyoto University Graduates", "The Fundamental Research on Higher Education Teaching System", and "The Record of Open Laboratory Class".
3. "For Research and Development of Teaching System" was published in 1995 as the first publication of this center. "Toward the Open University Class — One year of the Open Laboratory Class of Kyoto University" was published in 1997 as the first fruit of Open Laboratory Class.

## 6. STAFF

### Professor

KAJITA, Eiichi, D. Litt. (Kyoto Univ.), 1. Psychology, 2. Educational Research

TANAKA, Tsunemi, 1. Educational philosophies

### Associate Professor

ISHIMURA Masao, 1. System, policy, and organization in higher education

### Instructor

MIZOKAMI, Shinichi, 1. Self theory, 2. Youth and adolescent psychology

OYAMA, Yasuhiro, 1. Clinical psychology, 2. Student counseling

### Clerical Employee

ISHIWATARI, Masami

OKADA, Naomi